

石岡市立小中学校統合再編計画保護者説明会（関川小） 要旨

日時 令和2年1月29日（水） 午後7時から午後8時25分

場所 石岡市立関川小学校 図書室

執行部 児島教育長，豊崎部長，吉澤次長，倉本参事，神谷参事兼教育総務課長，関指導室長，細谷副参事，小川課長補佐，海東係長

参加者 31名

次第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 職員紹介
4. 統合再編計画に係る説明
資料
 - ・石岡市立小中学校統合再編計画
 - ・主な自由意見（アンケート）
5. 質疑応答
6. その他
7. 閉会

～～～ 次第に沿って4. 統合再編計画に係る説明までを行う ～～～

（参加者）

茨城県教育委員会は、現在8校の県立中高一貫校で中学生を受け入れています。中等教育学校や附属中学に石岡市から何人ぐらいの生徒が行っているのか。実際にどこの学校から何人というのはデータで分かっているのでしょうか。それを示してください。

例えば十何校小学校があるうちのどこの学校が何人というように、そういう具体的な数値を示すと、本当に国府中学校がこのまま行って、中学校を継続していいのか。逆に言うと茨城県教育委員会は中高一貫校について、1クラスでやるわけですね。その辺の違いは何なのか。茨城県教育委員会は1クラス40名としており、来年は土浦一高、水戸一高に各80名を募集、そういうことを踏まえていくと、東洋大牛久や常総学院、霞ヶ浦、土浦日大、茗溪学園、それぞれ私立公立の中学校があります。現在私立中学校に行っている生徒が何人いて、そして将来予測するにはどれぐらいの生徒が行くのだということを見ればわかると思う。何割ぐらいの生徒が、土浦一高、水戸一高の附属中学校へ進学するのか。そういう予測を立てて計画を作っているのか。その辺を具体的に聞きたい。

それから今日は教育委員会だけで説明していますが、なぜ市長部局の総務課や財政課な

どが来ないのか、その辺もお聞きしたい。

(事務局)

茨城県では県立高等学校改革プランの基本プランとして2020年度から2026年度を第1期計画しているところですが、県南地域で、竜ヶ崎一高の附属中学校が今回募集をかけてますけれども、1クラス分にとどまっております。土浦一高附属中学校が開校したとしても、県南地区広い地域のなかで1クラス分程度ということですから、予測できていないので、進学する人数を見込んだ計画にはなっておりません。しかしながら今後県の動向を見まして状況を把握する必要があると思っております。

(参加者)

県立だけでなく、私立に何人行っているかについても教えてください。例えば土浦日大の中高一貫、霞ヶ浦の中高一貫、東洋大牛久の中高一貫、常総の中学校、茗溪の中学校などに、どのくらい進学しているのでしょうか。また竜ヶ崎一高附属中学校や、土浦一高附属中学校が2学級となると、どのくらいの割合で減っていくというのがわかるわけです。この計画は小学校からそのまま中学校へ行くという計画でしょう。そうではなくて、減らした時の事を考えてやっていますか。ですから県立中学校や私立中学校へ進学している人数はどのくらいいるのかを教えてください。

(参加者)

詳細なものはありませんが、毎年学年で15名～18名程度が県内の私立中学校へ進学されている状況です。

(参加者)

以前の答申では小中一貫というのはなかったのですが、小中一貫であれば特区を作ったうえでの小中一貫校であるべきだと。なぜ特区を作らなかったのですか。特区の意味がわかっていますか。

(事務局)

教育課程の編成や学区を広げて募集するなどということですね。

(参加者)

小中一貫校を作るのであれば特区を作った方が学校の特色は出ると思います。国府中を見ると令和9年には1学級になってクラス替えができなくなる。そういう学校に特区を当てていけば、別な意味で活性化があるんじゃないかと思うわけです。また国府中をどこかと再編する、府中中と一緒にするんだとなればまた困るわけですね。困らないためには、そういう方策を考える必要がある。その辺を考えないと、ただ人数合わせ的に統合しても意味はない。私は統合することに反対はしません。統合をしないことでその他の問題のほうがいっぱいあるわけですから。ただそういうことを片付けていかないと次の段階に進まない、見切り発車と一緒にです。だから城南中学校は見切り発車ということになる。だからいろいろなことが総合的に地域の住民に満たされて、そしてこういう教育をしますと、地域の要望はこうだというものを作る事が教育委員会ではできない。だから市長部局の総務担当などを入

れて検討してくれと城南中が統合の時に私は言ったはずですが。そういうことが踏襲されていないということが無責任である。

もっと本気になって考えていただかないと、この地区から小学校がなくなったら市の建物はなくなるんですよ。三村はまだ公民館があるから市の建物はあるけれど、関川には郵便局もないし交番もない何もない。そういうときに、教育委員会は過疎地を作っているに過ぎない。そういうことを考えてほしい。

(参加者)

関川小の保護者です。私は上の子が城南中に通っている時に、統合の計画が最初に持ち上がった時、当時の教育長さんが学校にご挨拶に来た際に直接対応させていただいて、今後統合についてこのように進めたいという話を最初にきいたメンバーの一人です。その時は平成25年の3月の頃だったかと思いますが、統合の時に教育長さんから言われたのは、「小学校と中学校で統合するのであれば、小規模の小学校が最初ではないんですか？」というのが城南中の当時の考え方でありましたが、「中学校を先に統合する理由というのは、小学校を先に統合してしまうと2回統合する経験を子どもたちに負わせることになるのでそれは避けたい」というご発言がありました。そこで当時のPTA本部としましては、城南中学校が全教科の先生がそろわないような状況にもなっていたり、また、例えば野球部が8人しかおらず大会に出られない状況で、うちの子は野球部ではないんですけども、代理で出て大会に何とか出場するといった状況も実際にありました。これはもう厳しいなということを感じていたこともありまして、最終的には統合という形になったかと思うんですけども、私どもの考えとしては、じゃあ2年後3年後には小学校が統合されるのかなという、当時の計画では、高浜小学校、三村と関川の3校の統合するような計画であったので、当時でいうと平成33年には統合が行われるんだなと思っていたのですが、再編計画が6年度に延びてしまったということで、令和6年度には必ず統合が行われるんだなというのが、質問の1つです。

もう一つは霞ヶ浦の対岸には玉里地区があつて、あそこは玉里中学校玉里小学校玉里北小学校玉里東小学校を統合して玉里中の校庭に校舎を作っていますよね。例えば牛久市に奥野小と牛久二中がありますけれども、先程も話がありましたが、特区を作つて学校を残す方向ですすめていたり、笠間市のみなみ学園というところも小さな学校ではありますが、地域に学校を残す方向で取り組まれております。その中で何かしら特色を示して、地域から、そして学区外からも子どもたちを集められるようなシステムを作つて、他の地域の学校は統合計画でどんどんまとめていくような流れのところが、最近では地元意識というも含めて、できる範囲で残していきたい、というような雰囲気になっているような感じが私はするんですよ。話を戻すと、先程話がありましたけど、この地区に中学校がなくなって小学校がなくなって常磐線の駅の中で駅があるのに学校がないというのは、たぶんこの地区だけになると思うんですよ。上野、日暮里から上がってきたところに必ずどの駅にも駅名がついた学校ってありますよね。ここでは高浜小がそうなんでしょうけど、常磐線の駅で東京の

通勤圏でありながら、この地区に学校がないということがどうなのかなというのと、旧城南地区は特色ある学校づくりと地域との連携というのはずっと行ってきたものがあるので、そういった資産というのは残していくべきなのかなというのが1つと、あと文部科学省から概算要求が出てくるかと思うんですけども、児童生徒に1台のコンピュータを今後支給していくということが昨年度末に話されたと思うんです。県では例えばラインを使いたいじめ相談を夏に40日間実施したら800人以上の方がアクセスして、いろんな相談をしたということで、今の時代にやはりSNSの活用ということも子どもたちやっていかなければいけないし、1人1台のタブレット端末を持ちながら、やはり隣の学校の児童生徒と勉強をしたりとか競いあったりということも今後はやっていくべきことかなと思うんです。そうすると学校の適正規模というその2クラス学級編成ができる規模は確かに必要なと、私は教員からの出身なのでわかるんですけど、例えば関川三村高浜って長らく単学級をずっとやってきて、私もここ出身で単学級ですけども決して変な人ばかりではないです。みんなこの地元に残ってすごく地元のために一生懸命やって仕事されて、責任ある立場でやっている方だって大勢いらっしゃいますし、地域で活躍されている方がたくさんいるわけですね。これは高浜も三村も同じで、単学級だから切磋琢磨できないというのは、ちょっと理由にならないのかなと。切磋琢磨の方法っていうのは私たちが子どもの時には、中でお互いに競い合って連携し合っているのがありますが、今の時代これらに加えてタブレット端末などを使って通信機器を使いながら、いろいろなコミュニケーションをとっていくことも必要になってくることを考えると、私はあえて大きな学校に1つにまとめるよりも、関川小三村小高浜小それぞれ複式が解消しなければならないといけないと思うので、せめて城南地区に1校の学校というような統合のほうが、地域との連携とかもバランスも含めていいのかなという感じがします。

今デジタル教科書とかそのAIを使ったドリルや、私達でいえば鉛筆、消しゴム、ノートという部分を、タブレット端末が勉強道具として普通に持ち歩く時代になっていくと思うんですよね。そういった中で小規模な学校だけでも端末を利用する率先した市の取り組みに石岡市の学校はやっているんだと、地域は田舎で人数は少ないかもしれないけれども、そういった通信機器を使いながら一生懸命勉強して学力も伸ばしているんだと、例えばそういう特色づくりというのも考え方の1つにあるのかなというふうに思ったので、発言させていただきました。6年度統合というのは間違いなくそこでやるんですかね。それとそれを4校で必ずやるってこともほぼ確定なんですかね。その辺はいかがなんでしょうか。

(事務局)

確かに平成20年度の答申の中では3校の統合ということで示されたところで、理由の1つとして、さらなる児童生徒数の減少ということで3校が統合しても単学級となるということ踏まえまして、4校の統合再編というようにいたしました。現段階としましては、答申を得て計画がなされていますので、今後は統合検討委員会を設置しまして統合の時期というものを決めていくことになろうかと思えます。いま言われました令和6年度で確定

ということでは今の段階ではありませんけれども、計画のなかで10年を見越していますので、早期解消をめざすのであれば5年ないし6年という想定はされると、自分自身では持っております。ですからあとは各地区各学校さんから出していただいて、委員さんになっていただいて検討をしていくということになろうかと思えます。

(参加者)

4校統合というのは、それは決定ですか。

(事務局)

計画上はそのような形なので、それをご理解いただけるように説明会を開催しているところです。

(参加者)

昨年の7月19日の審議会の資料の中では第1段階第2段階というのが入っていたんですね。その第1段階という資料をみますと高浜三村関川を合わせた合計人数191と出てるんですよ。平成36年から令和6年です。191という人数は学級数としては単学級プラスちよっとくらいかもしれないですけど、私が関川小にいた時は130人程度でしたので、それからすると大丈夫なのかなという。でももう確定なんですよ。

(事務局)

そのように教育委員会としては考えております。

(参加者)

ということは、もう覆ることはなく、統合が進んでいくことになるのですか。変更することは100%ないのでしょうか。保護者が計画を受けいるかどうかという、受け入れざるを得ない状況なのでしょうか。

(事務局)

計画としてこれを立ち上げてますので、今後は統合検討委員会を立ち上げてそのうえで決定していくこととなりますので、説明をしながらご理解をいただけるよう努力をしてくつもりでございます。あくまでも統合検討委員会のなかで4校統合というのが決まってくっていくと思われますので、受け入れざるを得ないとかではなく、今後役員さんや地域の皆様にご理解をいただけるよう説明していきたいと思えます。

(参加者)

そうすると、その考え方は答申に基づいて粛々と進めるということですね。

(事務局)

そのように考えております。

(参加者)

統合検討委員会という話が出てきましたけれども、それはいつ頃に決めるのですか。

(事務局)

可能であれば今年度ないし令和2年度には立ち上げたいと思っております。これまで審

議会を経まして1年かけて、それからまた計画策定にあたっては市長部局との協議をして説明会を重ねてここまで来ましたので、今後は地域の方と学校関係の方とご理解いただければ統合検討委員会を立ち上げたいと思っております。それはあまり何年も置くものではなくて、今後早期に進めたいいきたいなというように考えております。

(参加者)

そうすると統合検討委員会というのは、今度は教育委員会だけではないですね。要するに市長部局も入るんですね。教育委員会だけではだめですよ。統廃合というのは教育委員会だけの仕事ではないでしょう。

(事務局)

基本的には、ご存じかとは思いますが、区長会長さんはじめ地域の方の代表と学校関係の代表とそれから我々教育委員会とで組織しまして、4校統合を想定すればそれぞれの協議があるかと思うので、その擦り合わせをしていくような形になろうかと思えます。で、今言われたような財政部局やそういったところのものが委員になっていくような案ですけども、前回の城南中学校の時にはありませんでしたので、現在は想定しておりませんが今後、施設整備の面やそういったところでの予算の関係もありますので、ご意見としていただいております。

(参加者)

統廃合というのは市全体に関わることで、石岡の将来をかけていることだから、やっぱり全庁をあげてそういう検討委員会を作らなければいけないんです。そんな生半可だったら、ずっと今のままで踏襲した方がいい。私はそうじゃなければ、統廃合はすべきではないと思う。それができないのであれば、教育委員会ができないものを市民ができるわけがない。そのトップには三役という役職がいるわけです。そういうところにいる人を入れなくていいということはないと思う。すべてお金から始まりお金で終わる。教育は人から始まって人で終わる。ものを作るのは金で始まる。だから人と金が一体となっていかなければ統合はできない。だから城南中学校が石岡中学校に行ったときに、市から体育着が出ましたよね。あれは最初出なかったですよ。要望があったから出たわけなんです。今度は中学生よりも多い人数が行くわけだよね。そういう予算的な措置は誰が出すんだ。みんな保護者が出すのか。この今日もらった資料のなかに、だまされたような感じがするというのがあったよね。だから、だまされたんじゃないで、「ああ、統合してよかった」と思えるようになるためには、そういうちゃんとした予算措置ができる関係部局の人をちゃんとメンバーに入れて、そして検討委員会というのを立ち上げなければ意味がない。それができないんだったら、今までどおり、統合なし。そうしないとその後の、残った学校の跡地をどうするんだという話ができないわけだ。ね、そうでしょ。教育委員会はちゃんとここがなくなったら私たちの持ち場ではありませんと、それは管財課です。と放り投げてしまう。そうじゃなくて、旧出島の今のかすみがうら市の旧宍倉小学校のように、ああいうふうな施設をつくって、ここを市民に開放しますと。健康と長寿を約束できる施設を作りますと、言ってみなさいよ。そしたら拍

手が出ますよ。そしたらすぐ有無を言わず賛成となりますよ。だから、そういう施設を作るとか、ここをどうするとかっていうことは決まってからでも統合は遅くない。ここを何に使うかが決まらなければ、ずっと伸ばしていてもいいと思うよ。そういうふうに1つ1つ階段を登っていかなければ、踏み外したら大けがをする。大けがをするのは保護者だ。高見の見物をしているのは教育委員会。そこまでいかないかもしれないけれども、そうなっちゃっては困るから、私は言うわけです。だから地域の区長とか、そんなの入れなくたっていいんだよ。それに市の幹部たる者そういう人たちがみんな考えて、こういう子どもたちを作りましょう。そういう気持ちになればできるはずなんだ。教育委員会だけの行政経験のない人たちがいっぱいいたって何にもならない。

(参加者)

統合検討委員会を開くにあたって1つ提案させていただきたいんですけども、城南中の統合検討委員会の時に私もメンバーの中に前半途中まで子供が卒業した関係で変わったんですけども、検討委員会の人にやっぱりお願いしたいなと思ったのは、検討委員会のメンバーだけでなく、ここに今回参加している皆さんが発言できるような場面をぜひ作っていただきたいというふうに思います。で、それは席なんかもそうですけれども、賛成、反体みたいな形ですと、まるで戦いをするようなイメージなんです、説明会が。じゃなくて、別に責任ある発言を求めることはないの、たくさんこれだけの方がいらっしゃるんであれば、一人の方に対して保護者3、4人ぐらいのグループをどこかの教室で作っていただいて、その中で、統合するときには実はこんなこと悩んでるんですとか、金銭面どうなんでしょうとか、うちの子実はこういうところが気になるんですけども大きな学校行ったらどうなんでしょうとか、そういった保護者一人ひとりの考え方とか悩みとかそういったものを話せる機会を設けていただきたいと思います。一方的に決められてしまうと、なんか被害者意識で、私たち受け取ってしまうんですけど、自分たちの発言の中から何かがやはり統合に生かされているってことになる、統合に参加したとか、学校を作るために私たちが頑張ったんだという気持ちになると新しい学校への愛着っていうのも変わると思うんです。どうしても行政側だと話すときに責任ある発言を求められてしまうと、いったことが一人歩きしてしまうということがあると思うんですが、そうではなくてあくまでもその皆さんの意見を聞いて、これは上に吸い上げますよと。ですから、ざっくばらんに話し合えよう。自分も地域のメンバーですからという、そういうスタンスで結構でありますので、それはあの三村高浜地区でもそれぞれに実施していただいて、オープンな形で話し合いを設けていただければと思います。そうすることで、どうせ統合するのであれば、やっぱりいい形で統合していただきたいし、新しい学校を長く子どもたちの教育にいい形で携われる学校にしてほしいと思いますし、私も石岡生まれの石岡育ちなので、やっぱり石岡の教育でよかったと、石岡の学校に行かせて良かったと思えるような、そういったゴールにさせていただければと思いますし、うちは子ども卒業しちゃうんですけど、何らかの形で地域のためにも関わられるようになりたいと思うので、ぜひそういった機会を設けて下さい。保護者の方が参加で

きるというのがメインで地元の方も可能であれば一緒に入ってということで、そうすると宍倉小学校のような、先程おっしゃったような意見とか考えも出てくるでしょうし、地元の中にはそういうのを生かしたいという方もいらっしゃるでしょうし、いい形でプラスになればと思いますので、ご提案させていただきたいです。

(事務局)

ありがとうございます。検討委員会の委員さんの集まりだけではなくて、それぞれに部会をもって、その部会のなかで検討していくことになるかと思いますが、その部会の持ち方ですね。その広く皆さん一般に出ていただけるような機会を何とか設けるような形を、私も必要かなと思います。今回アンケートのほうも送らせていただいたものは、あえて載せさせていただいたんですけれども、どうのご意見があるのかということも含めまして、それを我々が知らなければいけないかなというように思いまして、今回アンケートということで出していた結果をまとめさせていただきました。我々もそれを見て、また地域に入った時には、ああいうご意見があつて、その時またお話をする中で、本当の意味はこういうことなのかなと理解したいがためにお願いをしたわけです。有効活用できるようにしたいと思います。ありがとうございます。

(参加者)

当時城南中の本部役員をやっているときに、城南中と関川小、南小、高浜小、三村小の5校で統合した時にどんな問題があるかっていうグループディスカッションをやったんです。ばらき台にあるグリーンパレスでしたか、城南中のPTA本部が中心となって司会進行を務めて、その時にすごく多くの意見が出たのですが、例えば、バス通学になると運動不足になるのではないかとか、そういう保護者目線の意見が多く出て、それは当時の櫻井教育長さんにパネルで写真を撮ったものを送って、こういう意見が出てると、ですから地区のPTAとか保護者の方にそういったものを投げいただければ、我々は我々でもできるでしょうし、やはり、そこに市の方々が入っていただければ、さらに話は充実すると思うんです。毎月グループディスカッションをやれという事ではなく、年に何回かでもそのような機会をもってもらえれば、統合がいい形で進むのかなと思います。もう前向きに考えるのであれば、ぜひそういうようなやり方もあるかと思いますが、よろしくお願ひします。

(事務局)

今、保護者の方から提言がありましたが、今日もまたその一つの場合でありますので、今3人くらいしか意見を言っていないので、せっかくの場合ですから、ご意見いかがでしょうか。

(参加者)

関川小学校保護者です。よろしくお願ひします。こちらの資料、色を付けたり、まとめるのも苦勞されたのかなと思いますが、こちらの資料を見ていると、少しもやっとする部分があるので、次回に生かしていただけたらなと感想になってしまうのですが、1点述べさせていただきます。2024年に統合とありますが、それには大規模な改修が必要になってくるということですが、それには5年かかるといわれていて、まだ開始されていないのに、2024

年に間に合うのかなと、書いてある中身の整合性が取れていないように思うんですけどもということが第1点目と、2点目が課題をいくつか挙げていただいていますけれども、その課題に対して市からはこういうような形で解決していきますという内容が書かれていないので、ただ挙げられて、で、どうするんだろうというように思いますが、今後改訂することがあるならば、こういった点についても書いていただければと思います。

(事務局)

大規模改修ですと、市が取り組んでおります学校施設の長寿命化計画というものがございまして、耐用年数を迎えていないものを、改修いたしまして延命を図って有効活用しているという取り組みでございます。南小学校自体も築年数が42年とありますけれども改修の対象校となっております。躯体の状況を判断しまして、1年ないし2年の工事期間が必要となってきます。整合性がとれていないようなご意見でしたのが、これらを決めながら改修事業をしていきたいと思っております。それから課題のほうで通学距離が10km以上になる様な地域があることをどのようにしていくのかというのを、今回明言しておりませんが、そこは通学のルートやバス停の位置など、そういったところを、今後検討委員会の中で部会を通して地域に実状に合ったバスのルートやそういったものを検討していくことになろうかと思っております。時間と距離ということで、同じ関川地区でも手前の方と奥の方とあるかと思っておりますので、そのところを検討委員会の部会の中で意見をいただきながら解決していきたいなと思っております。

(事務局)

計画書ということで、どうしてもざっくりとしたところが出てしまっていて、では具体的に、というところが足りないところがあるのは、私も理解しておりますけれども、一方でそのすべて決定事項として、ありきとしてお示しするものかかというところもありますので、この計画については、審議会の課程の中で得たものを具案化した形でございます。詳細様々あるかと思うんですが、お話を重ねながら決めていきたいといったスタンスを考えております。市町村によっては、すべてその決定が決まっています、それを説明するようなスタイルもございまして、石岡市としては、あくまでも検討委員会の中で合意をいただきながらより統合を考えております。先程も少し話が出ましたが、近隣の小規模な小中一貫校の良さを生かしたような取り組み事例などもあります。石岡市においても、これから小中一貫を考えていくなかで、他市町村の事例なども参考にしながら、いいところを取り入れながら検討していきたいなと思っております。

(参加者)

参考までにお伺いしますけれども、ここに住んでいた人たちの中でも、すでにつくばの方に流出している人たちがいるんですね。まして学校がなくなると人の流出は防げないかなと感じております。正直なところ、あと何年か20数年の間にはこういう現象が出てくるのだらうと思っております。だから決して反対ではないんですが、この学校の1年生の第1期生としては、何か虚しさも感じます。ただそれだけではまずいとは思っておりますけど、地域

のためと思うのであれば、タブレットなどの授業もありかと思しますので、ぜひ検討をお願いします。

(事務局・教育長)

本日は本当に貴重なご意見ご要望ご示唆等もいただきました。我々も統合再編については、さらに研究なり見識なりを深めていかなければならないと、強く思っております。やはり今日のお話しをお伺いした中では、本当に子どもたちのために魅力ある新しい学校づくりをするためには、そういう視点で本当にいろんなご意見いただいたことは我々にとってもありがたいことだと思っています。我々もやはり子どもたちのために何ができるかを考えていく、これは一番大事なことだと思っています。子どもたちのより良い学習の場としての機能を高めていくという教育的な観点に話し、それから学校とそれから地域とのつながりそれからこれまで関川小学校が持っていた多様な機能があったかと思うんです。文化的な中心を果たしていた、コミュニティーの中心であった、そういった地域社会にあってこれらをどう維持発展させていくか、そういったことにつきましても、今後貴重なご意見をいただくことになろうかと思しますので、そういった時には、先ほどもお話しありましたが、みんなでお話合いをもっていくことが大事かと、まさしく私もそのように思っています。本当に皆さんと一緒にこの合意形成を図りながら、いい学校づくりに向けて取り組んでいきたいとそうように思っておりますので、今後とも一つよろしくお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。